

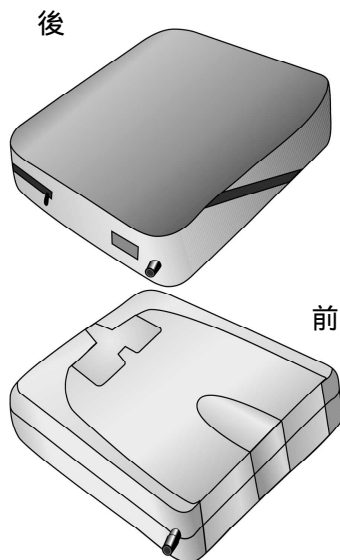
(レンタル用)

取扱説明書

V A R I L I T E ソロPSVクッション

ソロは、他に類を見ない座具です。正しい姿勢を保ち、安全で効率的な動きを安定させ、組織保護の為に圧力を和らげ、使用する個々人の好みに合わせた快適さに調節してくれます。それでいてソロは驚くほど軽い座具です。ソロの性能を完全に引き出す為に、次の使用説明書をよくお読みの上、保存して参考にして下さい。

1) クッションをご使用になる前に



クッションの向きに注意：カバーの持ち手が付いている方を体の前面にしてPSVバルブが右前に来るようにして下さい。

ご注意：カバー内へのクッションの出し入れには、上生地裏側に張り合わせてあるエアフィルターフォームなどを傷ついたり、しわを作らないように、丁寧に扱って下さい。また、クッション内の空気を少し抜いてから行うと楽に出来ます。

上図：カバー付き 下図：本体

本体の向きに注意：本体の向きを間違えるとソロの性能が発揮できないだけでなく、違和感もあり、座位保持ができません。初めてご使用になる時は、必ずカバーのファスナーを開け本体が正しい向きになっていることを確認して下さい。(下の図)

2) 車いすにクッションを固定する

ソロクッションのカバー底部には滑り止めのコーティングがしてあります。底部が汚れて滑り止めが効かなくなりましたら、アルコールを染ませた布で拭いて滑り止めに再生させて下さい。更に強固に固定するには、雄側のベルクロテープを車いすの座布に縫い付けて下さい。

3) クッションを最適な圧まで下げる

クッションに付いている PSV バルブの簡単な操作で一人一人の「かたち」に合わせ調節できます。

操作手順

バルブを 2 回転以上回して完全に開ける。(自動的にクッションが膨らむ)
完全に膨らんだらバルブを閉める。

クッションの上に深く座りバルブを 1 回転回して窓から見える目盛りの数字 1 ~ 3 のどれかに合わせます。(数字は、クッション内の空気量の目安です。数字が大きくなるほど身体は深く沈みます。)[通常は 2 でのご使用をお薦めします。]
空気が抜けるのが止まるまで待ちます(約 10 ~ 15 秒)。空気が抜けるのが止まりましたら必ずバルブを閉めてください。

ご注意：PSV バルブの新規機能は、クッション内の圧が好ましい圧力まで下がると自動的に弁が閉まるスプリング弁が付いています。

但し、PSV バルブを 1 回転以上回しますと機能は解除されます。PSV 機能が解除されると、スプリング弁が効かなくなります。今までのバルブと同様にご自分の判断でクッション内の空気量を調整される方は、1 回転以上バルブを回してください。但し、空気の抜きすぎによる底付きにご注意下さい。

4) 洗濯方法の注意

クッション本体：

洗濯機での洗濯はできません。中性洗剤で手洗いをして下さい。**本体のバルブがしっかり締まっている事を確認し**、柔らかい布を使いぬるま湯で洗って下さい。 本体には、**絶対に熱湯をかけてはいけません**(65 以上)。本体を包んでいるナイロン生地 of 圧着部分の接着剤が剥がれる危険があります。洗濯後は、表面とバルブを布で拭いて陰干しして下さい。

カバー：

洗濯機で洗えます。ただし、ファスナー部分が破損しないよう、また肌に密着する表地はデリケートにできていますので、洗濯ネットに入れてから洗って下さい。

脱水機はご使用できます。しかし、**絶対に乾燥機はご使用しないで下さい**。高温では、接着剤が剥がれたり、生地が変形する危険があります。乾燥は、陰干しをして下さい。

5) 修理

磨耗を防ぐ為、ソロクッション本体には丈夫なナイロンに厚いウレタンコーティングが施されています。ソロは機密性の高い製品でありますが非常に起伏の多い形状でありますので、穴があいたり、切れたり、燃えたりすることがないとは言えません。空気漏れをチェックするには次の方法で一晩テストすると良いでしょう。

一日の終わりに、座ったままでバルブを開いて空気をすべて逃がします。そしてバルブを閉めて一晩放置します。翌朝、クッションに座ってからバルブを開けます。もし、空気が逃げて行くようなら、クッションが空気漏れを起こしている証拠です。すなわち夜の間に入気が入ってクッションが膨らんだ証拠です。このような場合は、レンタルを頼んだお店に修理を依頼して下さい。

6) バルブを開けてもなかなか空気が入らない場合

おしりの横幅より小さいサイズや、空気を極限まで抜いて長期間使用しますと、バルブを開いても戻りが悪い場合があります。これは密度の高い特殊フォームを使用している為であり、材質のへたりにではなくフォーム内の気泡がくっついている状態です。

このようなときは、

バルブを完全に開け2分間たってからバルブを閉めて下さい。

バルブがついている前側からクッションを丸め、後ろ側へ強制的に空気を送り込んで下さい。

完全に後ろ側が膨らみましたら、クッションを広げもう一度バルブを完全に開けます。今までより空気が入ります。

全体が復元するまで1から3を繰り返して下さい。

それでも入らないときは、口から息を吹き込んで下さい。この時、唾液などの水分が中に入らないように気をつけて下さい。

長期間使用しますと、完全に膨らまない場合もあります。

全体の60%まで膨らめばご使用に問題はありません。

クッションの使用上の注意（次のことは必ず守ってください）

カバーを外してクッション本体だけでのご使用は、絶対にしないで下さい。
車いすの座布を留めているネジの頭などで、本体をキズつけてしまいます。
かならず、カバーをしてご使用下さい。カバーの下面は厚い滑り止めコーティングが施してあり、本体を保護するようにできております。
使用者が座ってからバルブを開きクッション内の空気を適度に抜きますが、調整しましたら必ずバルブをしっかりと閉めて下さい。バルブを開けたままですと、空気を利用した優れた体圧分散効果がなくなり、一般的なクッションと変わらなくなります。
また、空気の調整をした後は、必ず坐骨や仙骨の下に手を差し入れて空気が残っているかを確認して下さい。
他のクッションからソロクッションに交換すると、車いすに多少の調節が必要となります。車軸の位置、バックレスト、フットレスト並びにアームレストの位置をチェックして下さい。
クッション本体に穴をあけてしまう危険性があることは絶対にしないで下さい。例えば、安全ピンなど鋭利なものをクッションの近くで使用することなど。

商品についてのお問合せ先：

株式会社ユーキ・トレーディング 電話 03-3821-7331 FAX 03-3821-7552